



2025 年度
第 7 号

体育市民連帯 ニュースレター

大韓民国スポーツの

根本的变化を

皆さんと共に

作って行きたいです

体育市民連帯と共に

していただけませんか？

1
「圧勝」選挙
理由は？
混濁選挙戦に薄れた
改革動力



2
議論の的と
なっている
卓球女子代表
すり替えの真実



3
ソウル市体育会幹部ら
スポーツマッサージ
上納疑惑
調査に着手



4
全羅北道
ソウルに圧勝
2036 年五輪招致
国内候補地選定



5
3 月に入って
新しく変わった
大韓体育会
人事のキーワードは



*

体育市民連帯 2025 年定期総会の結果

こんにちは、体育市民連帯です。

去る 2 月 25 日火曜日午後 4 時に 2025 年定期総会を成功裏に終わりました。

今回の総会では 2024 年事業実績及び決算報告、2025 年事業計画及び予算承認、役員構成の変更など、主な案件が議論されました。

2025 年にはもっと活発な活動を繰り広げる予定です。

また、寄付金活用実績を透明に公開し、会員の皆さんともっと緊密にコミュニケーションできるようにします。

体育市民連帯の持続的な発展のために共にしてくださったすべての方々に感謝いたします。

これからもたくさんの方の関心と参加をお願いします！

詳細な定期総会の結果及び資料は体育市民連帯ホームページでご確認いただけます。



体育市民連帯

01 スポーツワールド 2025. 02. 28

「圧勝」選挙… 理由は？「混濁選挙戦に薄れた改革動力」



「トップドッグ（訳注：英語で勝利者の意味）」の牙城を越えるには力不足だった

鄭モンギョ大韓サッカー協会長の長期執権はピリオドを打つことができなかった。早くから予見されたことだったという分析が出ている。

聖公会大学文化大学院のチョン・ユンス教授は、混濁した選挙の様相がむしろ鄭会長に得になったという意見を出した。チョン教授は「選挙の戦術的な側面を見なければならない。能動的で、発展的に流れるほど既存勢力が不利な流れ」とし「鄭会長がわざと選挙を混濁させたと見ることはできないが、目まぐるしい選挙戦の様相を放置した側面がある」と批判した。

続けて「選挙延期により色々な問題が発生した時、迅速な措置を取るよりは、問題を潜伏させ、うやむやな状態にした。その結果、候補間の相互非難だけが残った」と分析した。実際にも政策対決ではないネガティブ攻防が何度も繰り広げられたことがある。このため、候補たちの公約とビジョンを見る機会が閉ざされてしまったというのが核心だ。

代案不在が鄭会長に有利に作用したという分析も出ている。金ヒョンス体育市民連帯執行委員長は、「候補たちが既存の体制との差別性を示すことができず、票心を揺さぶる魅力もなかった。有権者を相手に説

得力のあるメッセージを伝達することに失敗した」とし、「結局、変化の必要性を感じた人々さえも『選ぶ人がいない』と嘆く状況まで来た。鄭会長に票が集まるしかなかった背景」と説明した。挑戦状を投げた辛ムンソン、許ジョンム両候補が変化の旗手として位置づけられるには力不足だったという評価だ。金委員長は「両候補とも既存体制に対する批判を出すことだけにとどまり、自身の強みをアピールする面では足りなかった。選挙序盤から彼らの限界を見抜いた代議員たちがついに安定的な選択肢を選んだと見られる」と診断した。今回の結果が韓国サッカーの発展に向けた最善の選択だったのかは依然として疑問として残っている。ここで見逃してはならないのは、サッカー協会で新しいリーダーシップを披露する人物が足りないという点だ。専門家たちは「次の選挙では若くて改革的な人物が登場しなければならない」と声を一つにしている。

サッカー関係者が国民感情と相当な乖離を見せているという点も今回の選挙を通じて明らかになった。いわゆる「彼らだけのリーグ」だ。金委員長は「サッカー協会は引き続きファンと国民の情緒とかけ離れた方向に動いている。それに歩調を合わせて、サッカー関係者らも今回の選挙でサッカー協会に軍配を上げた。徹底的に自分たちの利害関係を中心に票を行使した」と指摘した。それだけでなく、選挙が終わった後、大韓サッカー協会がブルドーザー式運営方式を維持する可能性が高いという憂慮も出ている。長期執権の素顔が明らかになるというのが大方の見方だ。

鄭会長に対する期待感が低いということ自体も問題だという指摘だ。金委員長は、「(変わるとは)あまり期待していない。むしろ協会内部的に変化を拒否する流れが強固になるだろう。既得権はより一層強化されるだろうし、外部批判にもかかわらず協会は既存方式どおり推し進める可能性が高い」とため息をついた。サッカー界のある関係者も、「今回の選挙結果は、サッカー協会の改革可能性をさらに低くするシグナルかもしれない。変化が必要な時点で既存体制が維持され、その動力が消える危険が大きい」と展望した。

出典：<https://m.sports.naver.com/kfootball/article/396/0000701532>

02 ザファクト 2025.03.03

議論的となっている卓球女子代表「すり替えの真実」



まず、多少突拍子もないことですが、今回のコラム作成の背景及びご了承を申し上げます。大学卒業後、スポーツ分野で執筆を30年近くしているのに、今回の記事は簡単に書けなかったという点を丁重に申し上げます。理由はコラムニスト本人が該当内容をスポーツ倫理センターに告発した当事者だからです。不必要な誤解を防止するために十分な調査が終わる

まで待ち、報道価値、ファクト伝達、言論の役割、良心と勇気などを長く苦心した末に記事化を決めました。前回の大韓体育会長選挙の時に浮上した柳承敏候補（現会長）の卓球国家代表（選手）すり替えの真実を「きちんと」報道しようと思います。真実は隠蔽できませんし、月を指す指を攻撃したとしても、月はそのままだ存在するものですから。

ポイントは簡単です。その選手本人も知らないままオリンピック代表選手が不当にすり替えられたのです。2020東京オリンピック(2021年開催)を控え、2021年2月21日、光教シルム体育館で大韓卓球協会

の競技力向上委員会(以下、京郷委、当時委員長キム・テクス)が開かれました。男女オリンピック代表選手を選抜するのに、問題は女子選手でした。甲論乙駁の末、競向委(訳注:競技力向上委員会)はチョン・ジヒ-シン・ユビン-イ・シオンを選抜しました(男子はチャン・ウジン-イ・サンス-チョン・ヨンシク)。ところが、競向委終了後、キム・テクス委員長が当時光教シルム体育館にいた柳承敏大韓卓球協会長に報告し、イ・シオンがチェ・ヒョジュに電撃交替されました。キム・テクス委員長が競向委委員全体ではなく、一部委員に電話をかけてすり替えを断行したのです。メディアの報道がチェ・ヒョジュとして流れ、そのようにチェ・ヒョジュはその年の東京オリンピックに出場しました。そして成績も惨憺たるものでした。2016 リオオリンピックに続き、2大会連続で韓国卓球はオリンピックのノーメダルの屈辱を味わいました。

国家代表、特に4年に1度開かれるオリンピックに出場する太極マークは選手にとって人生がかかった重要なことです。ですから、どんな種目でも、会長でも誰でも、個人や何人かが密室で決めてはいけません。競技力向上委員会のような特別な協議体を構成し、公正に選抜します。

韓国のアーチェリーがオリンピック本選よりも厳しいという、熾烈で公正な国家代表選抜システムをもとに世界を号令するのはよく知られている話ですね。スポーツで最も重要な価値の1つは「公正」です。断然、上記の事件はあってはならない、スポーツの根本を崩す恐ろしい犯罪行為です。彼ら(誰かが指示し、誰かはこれを実行したので複数と表記)がなぜこのようなことをしたのかは見当がつかますが、詳細は省略します。私が教えた選手、私と仲の悪い選手などの私的判断が働いたのでしょうか。

念のため言及します。悪事を行った人たちが自己防衛の次元で前面に出す恥ずかしい言い訳のことで。 「選抜戦の順位でチェ・ヒョジュ(2位)がイ・シオン(3位)をリードするという論理はでたらめです。同じ競向委は男子3位のチョン・ヨンシクを、2位のアン・ジェヒョンに代わって選抜したからです。そして何より重要なことは、競向委が決定したことを密室議論を経て、個別電話通話で覆したという手続き的公正性の毀損です。競向委の決定に深刻な問題があったとしても、会長は競向委を再び開いて再議論するよう指示すべきでした。もちろん、このような再議論の指示も誰もが納得できる誤りがなければならず、会長一人の判断でむやみにしてはいけません。政治体制に例えると、独裁や寡頭政治に比肩する非常に危険な発想だからです。

事件発生当時、直ちに知らされ正さなければならないこの問題は3年をはるかに越え、昨年10月の大韓卓球協会長選挙の時に 이슈化されました。ずいぶん遅くなりましたね。なぜでしょうか?卓球界には「外部に悪いニュースが出れば良いことはない」という時代遅れの雰囲気があったようです。また反省すべきことですが、卓球人が権力に弱いという卑怯さも働いたようです。

健全な批判を遮るこのような悪い文化は、実は柳承敏会長時代、大韓卓球協会に蔓延していたと思います。協会に批判を加えれば「内部の銃質者」としていじめをしたり、ニンジンを提示して口止めを試みた状況が多いと聞きました。筆者も2023年初め、プロ卓球の事務局長を務めていた時、大韓テコンドー協会の不当な代表選手選抜記事に接し、上記の事件に触れ、「卓球ではもっとひどい場合もあった」とSNSに投稿し、とんでもないひどい目に遭ったりもしました。

当時、協会の副会長としてさらに高く上がっていたキム・テクス監督が監督者会議を招集し、事務局長の懲戒を主張しました。幸い懲戒はなかったが、これがプロ卓球の監督者会の案件として採択されたという事実が本当に驚きました。体育界は表現の自由もないのでしょうか?とにかく卓球協会長選挙でこの問題

に再び接した筆者は「私も卑怯だった」という自責の念に駆られ反省し、勇気を出して2024年11月スポーツ倫理センターにこの問題を直接告発しました。

2025年1月の大韓体育会長選挙の際には、国家代表選手のすり替え事件をさらに深刻にする事態が起きました。選挙過程でこの事件をはじめ、後援金インセンティブ受領など柳承敏候補の色々な疑惑が提起されました。テレビ討論生放送の時、カン・テソン、カン・シンウク候補が直接発言しました。パク・チャンボム前大韓ウシュ協会会長は体育会長選挙を控えて体育会民主化のために断食をし、以後の選挙ではカン・シンウク候補と一本化をして選挙対策委員長を務めました。

朴前会長は同じ時期、マスコミに詳細に「柳承敏」候補の疑惑を提起しました。先日会った朴チャンボム前会長は「当時、中央（ソウル）のマスコミはきちんと扱わなかったため、地方で記者会見を行い、大々的に報道された。ところが、ある人物から記事を下せば、柳承敏候補と一本化を実現させてあげるといふ提案が来て、ようやく頼み込んで記事を降ろしたり縮小したりしたことがある」と述懐しました。

出典：<https://m.sports.naver.com/kfootball/article/629/0000369310>

03 ニュー시스 2025. 03. 02

ソウル市、市体育会幹部ら「スポーツマッサージ上納疑惑」調査に着手



ソウル市体育会の幹部らが職員からスポーツマッサージを無料で受けたという疑惑が提起された中で、ソウル市が調査に着手した。

28日、ソウル市によると、市は公益情報提供により、今後2ヵ月間、ソウル市体育会内のスポーツマッサージ無料提供疑惑を調査する。

ソウル市体育会の幹部らがスポーツマッサージの資格証を持ったある職員から数年間無料でマッサージを受けたという疑惑がソウル市議会で提起された経緯がある。

公益情報提供によると、ソウル市体育会の職員A氏は、職場の上司であるソウル市体育会の幹部らを対象に、スポーツマッサージサービスを長期間持続的に提供した。この10年間、ソウル市体育会で契約職の職員が無期契約職に転換された事例が2件だが、その中の一つがA氏だというのが情報提供の内容だ。

これに関してキム・ヘヨンソウル市議員は昨年11月、市議会本会議是正質問で「職員A氏はこれまでソウル市体育会幹部らに数年間スポーツマッサージサービスを提供してきたと推定される」とし、「もしスポーツマッサージ資格証を保有した職員が職場内上司らに無料でスポーツマッサージサービスを長期間持続的に提供したとすれば、これは賄賂ないし供応提供の素地がある事案」と発言した。

同年12月、キム議員がソウル市体育会を訪問した当時、体育会はこれを一部認めた。

キム議員は訪問後、報道資料を通じて「実際に勤務時間にソウル市体育会幹部らが職員を通じて数回スポーツマッサージを提供されたことがあったという点を認め、不適切な行為だったことを認めた」と明らかにした。

出典：https://www.newsis.com/view/NISX20250228_0003082532

04 聯合ニュース 2025. 02. 28

全北、ソウルに予想を破った圧勝・・・2036年五輪招致、国内候補地選定



全羅北道が2036年夏季五輪誘致に挑戦する国内候補地に選定された。

全羅北道は28日、ソウル松坡区のオリンピックパークテルで開かれた大韓体育会2025年度定期代議員総会で行われた「2036オリンピック誘致国内候補地選定投票」で、計61票のうち49票を得て、ソウル（11票）を破った。無効票は1票だった。これで全北は1988年ソウル五輪以後、韓国で48年ぶりの夏季五輪を開くための挑戦に乗り出すことになった。

「国家均衡発展」を主張して「地方都市連帯」を掲げた全北は1988年ソウルオリンピック成功開催経験と各種インフラの長所を浮き彫りにしたソウルに大きな格差で圧勝した。

投票に先立ち、現場では呉セフンソウル市長と金グァンヨン全羅北道知事が直接発表者として出席し、それぞれ45分間プレゼンテーション(PT)を行った。各候補地のPT以降は15分ずつ質疑応答も続いた。さらに、評価委員会の調査結果報告後、代議員らが無記名の秘密投票を通じて1カ所の候補地を決めた。全羅北道は最近、オリンピック誘致都市のコンセプトである「地方都市連帯」を通じた国家均衡発展の実現に焦点を合わせ、票を集めた。

オリンピックを誘致すれば陸上競技を大邱スタジアムで開催し、光州（国際アーチェリー場・南部隊市立国際水泳場）、忠清南道洪城（忠南国際テニス場）、忠清北道清州（清州多目的室内体育館）、全羅南道高興（南熱日の出海水浴場）などで分散開催する計画だ。

これは国際オリンピック委員会（IOC）が指向する隣接都市連帯を通じた費用節減要求に符合し、首都圏に集中したインフラ・経済力の分散で均衡発展に新しいモデルを提示できるという点を強調した。

2014年冬季五輪を誘致するために茂朱を前面に出したが、競争を繰り広げた江原道平昌に国内誘致候補都市の座を譲った全羅北道は、当時の悔しさをきれいに洗い流した。

キム・グァンヨン知事はPTで「韓国の全国単位スポーツ競技の88.5%が首都圏以外の地域で開かれている。オーストラリアが3回オリンピックを開催し、メルボルン、シドニー、ブリスベンに移りながら行ったのも、国の均衡発展を図ったことだ」と支持を訴えた。

ソウルは1988年ソウルオリンピックを成功裏に開催した経験とスポーツ施設はもちろん、交通・宿泊などすべてのインフラがよく整った競争力を強調したが、全北に予想外の大差で押された。

2019年に釜山市を抜いて2032年夏季五輪誘致申請都市に選定された後、南北共同誘致を推進したが、IOCがオーストラリアのブリスベンを「優先交渉都市」に選定したため、実現できなかったソウルは再び五輪誘致戦で苦汁をなめた。

投票結果の発表後、大韓体育会と誘致申請都市協約書を締結した全北は、これからは他の国の挑戦都市と本格的な競争に飛び込む。

2036年夏季五輪にインドネシア（ヌサンタラ）、テュルクエ（イスタンブール）、インド（都市未定）、チリ（サンティアゴ）などが招致の意思を示した。

過去のオリンピック開催地は7年前の総会で決定したが、IOCはこの方式から脱し、事実上常時交渉体制を導入した。

来月の次期委員長選挙と6月の就任を控えたIOCは、2036年の開催地選定が今年以降に行われるものと予想されるという程度にしか計画を明らかにしていない。

出典：<https://www.yna.co.kr/view/AKR20250228154651007?input=1195m>

05 ハンス経済 2025. 03. 03

3月に入って新しく変わった大韓体育会、人事のキーワードは



大韓体育会が3月に入り、ついに新しい組織に生まれ変わった。大韓体育会は、柳承敏（43）第42代会長が先月28日に公式就任し、業務を開始し、1日付けで人事再編に踏み切った。職制改編とともに部長級以上の人事が行われた。

「能力」と「若い感覚」が核心キーワードだ。まず、事務総長を補佐し、大韓体育会の財政を担当する事務副総長に申東光訓練本部長を座らせた。柳承敏会長が大韓体育会の財政能力に力を入れるために会長直属で新設したマーケティング室の室長には、マーケティングパートで能力を発揮したオ・ジュン元スポーツマーケティング事業団団長が選任された。キム・ボヨン新任企画調整本部長は大韓体育会史上、女性としては初めて企画・総括司令塔に上がった。

今回の部長級以上の人事では、金ボヨン本部長を含め、女性13人が幹部に選ばれた。部長には最年少の39歳のクォン・ヒュジン予算部長をはじめ、1980年代生まれの5人が名を連ねた。

柳承敏会長は就任冒頭発言で「多様な部分で変化を図ろうとした」と話した。彼は「マーケティング室の場合、私の直属に置いたが、その他の公共機関として受ける制約を一つずつ解きながら自主予算をもう少し拡充しようと思う。多様な種目、選手、指導者、地方体育会に再分配すれば、もう少し健康なスポーツモデルが出て、体育の自律性と独立性を備えることができると思う」と所信を伝えた。

柳承敏会長は「選手村でも曖昧な職制よりは選手と指導者が中心になれる職制を通じて細かく支援しようと思う。選手たちが安定した環境の中で選手生活だけでなく引退後にも多様な進路を探せるよう努力を惜しまない」と付け加えた。特に彼は「内実を固め外延も広げる会長になれるよう努力する」と約束した。

出典：<https://www.hansbiz.co.kr/news/articleView.html?idxno=736713>

06 週間スポーツニュース

仁川南洞区、2025年体育振興基本計画樹立

<https://www.joongdo.co.kr/web/view.php?key=20250302010000121>

柳承敏大韓体育会長、公式就任…「協力して傾聴し、懸案を解決する」

<https://www.yna.co.kr/view/AKR20250228104100007?input=1195m>

HAPPY700 平昌全国生活体育スキー大会開催

<https://www.kwnews.co.kr/page/view/2025022811342595366>

柔道イ・ヒョンジら 3 人が「大韓体育会体育賞」受賞

<https://news.kbs.co.kr/news/pc/view/view.do?ncd=8189375&ref=A>

体育会、2028 年の完工を目標に幼少年スポーツコンプレックスの建設を本格化

<http://yna.co.kr/view/AKR20250301038200007?input=1195m>

体育会、IOC 選手委員候補としてボブスレー院のユン・ジョンが落選

https://www.hani.co.kr/arti/sports/sports_general/1184573.html

SK シュガーライダーズ、大韓体育会体育賞「スポーツ価値」最優秀

<https://www.yna.co.kr/view/AKR20250226027100003?input=1195m>

ジム 8 カ所のうち 1 カ所、価格表示制を履行しない… 過料などの措置検討

https://www.newsis.com/view/NISX20250224_0003075887

北朝鮮、白頭山地区宣伝…「体育観光名所」

<https://www.news1.kr/photos/7158372>

体育市民連帯オンライン 定期後援案内

万人が楽しむスポーツ世界、体育市民連帯が共に作ります。

私達連帯の活動に積極的に賛同していただくことを願います。

私たち体育市民連帯は体育人の権益保護と
福祉実現のために努力しています。
皆さんの小さな心づかいがより良い世界のための
体育市民連帯活動に強固な土台となります。
体育市民連帯会員として力になろうと
される方は下の口座に後援お願いします。

国民銀行 086601-04-095940

口座名義：体育市民連帯

オンライン定期後援は下のリンクを通じてホームページからできます。

多くの関心をお願いします。

体育市民連帯 ソウル市 瑞草区 瑞草洞 孝寧路 230 スンジョンビル 407 号

Tel : 02-2279-8999、E-mail : sports-cm@hanmail.net ホームページ : <http://www.sportscm.org/>

日本語訳：佐藤好行 新日本スポーツ連盟 国際活動局 韓国担当 jr1fep@gmail.com

週刊ニュースレターバックナンバー（資料室） <http://www.yg.jpn.org/sportscm/index.html>